

日本のみなさんこんにちは。タイソウのタイソウです。ちょうど一年前にもこの園だよりを書かせていただきました。年少さん年中さんには非常に馴染みが薄い（むしろ知らない）存在なのですが、年長さんの非常勤特別専任確率変動体育講師です。英語圏に住んでいますが、元々日本人なので近頃はめっきりカタコトの日本語ばかり多用するようになってしまいました。

子どもたちの身体の力、運動能力を伸ばすのが私の使命ではあるのですが、それより前に「見るちから」（見てまねる・見て覚える等）や「聞くちから」（理解力・集中力・判断力等）が伴っていないと、彼らの本当の能力は上手に引き出せないのではとも感じています。今回はそんなことも取り入れながら子どもたちとコミュニケーションを図りました。

見るちからでは、私が剛速球で投げるボールの色を当てたりしたのですが、かなり集中してゲームを楽しむ様子が伺えたのですが、聞くちからでは、私の予想と異なる場面がありました。私が動かない状態で、小さい声で発言したことを聞き取ってアクションを起こす、という場面で、子どもたちはそこそこ集中していたとは思いますが、例えばその声の直前に前や横にいた子が少し動いたり横を向いたり、他の音が少しでも耳に入る（目に入る）ことで一瞬にして聞き逃してしまう子が少なからずいました。また、小さい声で「丸くなってください」と言った時に、ダンゴムシになったクラスと皆が手をつなぎだし輪になったクラスとがありました。大人でもあることですが、子どもは、聞いていたつもりでも一瞬で聞き逃してしまったり、聞いたことをどう解釈するのか曖昧になってしまうということが、日常生活のさまざまな場面でしょっちゅう起きているのではないのでしょうか。

子どもたちへの物事の伝え方やそのタイミングの難しさと理解の度合いの確認の必要性和、やはり口頭で伝えるだけでなく、身振り手振りなどがあることによって、相手によりこちら側の伝えたいことの確実性があがることを感じました。トテモ、ベンキョー、ナリマス！

ちなみに「宇宙人になってください」と言った時には、それぞれ自分の知っている限りの宇宙人を披露してくれて笑かしてもらいました。

私が登場した時に感じる彼らの期待感のようなもの。一緒にいるときの彼らの表情の良さ。ハヤトかタイソウかなどと言った話すら意に介さない、彼らのそういうところが大好きです。

See You Soon!

Taizo

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・園での生活のしかたや流れがわかり、できることは自分でやろうとする気持が見られる。
- ・保育者に親しみ、自分の要求や気持を表す。（ほくも！わたしも！）
- ・道具や遊びを媒介しながら仲間存在を知る。

4歳

- ・集団生活への抵抗がほぼなくなる。
- ・クラスの大部分の子どもを知っている。（名前やマーク、どんな遊びをしている）
- ・グループ単位の中で自由に会話ができる。

5歳

- ・集団の一員としての意識を持って行動できる。（その中で自分が何をすることがわかっている）
- ・互いの力量、よさなどが認め合える。
- ・どんなメンバーの中でも自分の要求が言える。